

せいけん
詩集

第七十八篇

作：近藤せいけん

「二十一秒差」
にしゅういちびようさ

とうきょうはこねえきでん 今年も
東京箱根駅伝

かずかず
数々のドラマがあつた

てつこん とせうよう
鉄紺の東洋 エンジの早稲田

さいしゅうじゆつく きゆうにんかん
最終十区 九人分の

あせ こ
汗のしみ込んだ タスキをかけ

さいしゅう
最終 アンカー勝負

せんせう てつこん お
エンジが先行し 鉄紺が追う

だいかんしゅう せいえん はくしゅ
大観衆の声援 拍手

いき つづ かぎ ちから かぎ
息の続く限り 力の限り

おのれ げんかい こ なに
己の限界を越えて 何が

まえ うんこ
前につき動かす

はし はし
走る 走る

まえ まえ
前へ前へ

み
ゴールが見えてきた

き
エンジがテープを切った

てつこん
鉄紺がつづいた

さ
その差

にしゅういちびよう
二十一秒

はし びと う
走り人のドラマが また 生まれた

